

わくわくシネマター




今回も幅広いジャンルの映像を上映します。どなたでもご覧いただけますので、ぜひ、ご来場ください。

1 **11/24 (日)** 開演: 13:30

■ 紅い襷
～富岡製糸場物語～ (100分)

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の
世界遺産登録を記念して制作され
た映画



2 **12/15 (日)** 開演: 13:30

■ フランス紀行 Vol.2
ロワールの城巡り (47分)
■ プロフェッショナル仕事の流儀
「料理人 西健一郎の仕事」(43分)


3 **1/19 (日)** 開演: 13:30

■ 越中横綱伝
梅ヶ谷と太刀山 (28分)
■ 越中万葉憧憬
大伴家持、越中を詠む (30分)
■ 涙に浮かぶ記憶
戦争を次世代に伝えて (28分)

4 **2/16 (日)** 開演: 13:30

■ 世界名作映画館
ローマの休日 (吹替版) (118分)

オードリー・ヘプバーンと
グレゴリー・ペックの共演
による永遠の名作



※作品の詳細は裏面をご覧ください。

【ご来場の皆様へ】

- 会場内での飲食は禁止です。ただし、水分補給は可能です。
- 会場内での会話はできる限りお控えください。
- 入退場は自由ですが、ほかの方へのご配慮をお願いします。

【お問合せ先】

県民カレッジ 高岡地区センター
(ウイング・ウイング高岡 7F)
TEL 0766-22-5787

11月～2月上映内容【高岡】

<p>11月 24日 (日)</p>	<p>■ 紅い襷 ～富岡製糸場物語～ [100分]</p> <p>明治6年春、長野県松代区長の娘・横田英は反対する父を説得し、同郷の河原鶴らとともに富岡製糸場に工女として入場した。英が目にしたのは、これまで見たこともない別世界、壮大なレンガの建物とピカピカの器械、そして西洋式の労働環境の中で真摯に糸を引く先輩工女たちの姿だった。英や鶴らも、その姿に刺激され、紅い襷を掛けることが許されている一等工女を皆で目指すことを誓うのだった。(2017年)</p> <p>監督：足立内仁章</p> <p>出演：水島優、吉本実憂、桐島ココ、木村夏子、西村まさ彦 ほか</p>
<p>12月 15日 (日)</p>	<p>■ フランス紀行 Vol. 2 ロワールの城巡り [47分]</p> <p>温和な気候、なだらかに広がる丘陵、美しい川の流れ・・・昔から「フランスの庭」と呼ばれるロワール川中流域には、大小100以上の古城があり、静かなたたずまいを見せている。歴史の様々なドラマを秘めた古城を巡りながら緑豊かなロワール地方を旅する。(2003年)</p> <p>■ プロフェッショナル仕事の流儀「料理人 西健一郎の仕事」 [43分]</p> <p>名だたる食通たちに愛され続け、漫画「美味しんぼ」にも実名で登場した伝説の名料理人、西健一郎。その料理は素朴にして絶品。素材の味が最大限に引き出された、奥の深い味だ。さらなる高みを目指す名料理人入魂のおせち作りに密着。(2009年)</p>
<p>1月 19日 (日)</p>	<p>■ 越中横綱伝 梅ヶ谷と太刀山 [28分]</p> <p>日本の国技である相撲。富山には、明治時代後期、空前の相撲ブームを牽引した「第二十代横綱 梅ヶ谷藤太郎」、圧倒的な強さを誇り常勝將軍と呼ばれた「第二十二代横綱 太刀山峰右衛門」の二人の横綱がいた。(2023年)</p> <p>■ 越中万葉憧憬 大伴家持、越中を詠む [30分]</p> <p>746年、越中の国守として赴任した大伴家持はたくさんの歌を詠んだ。その理由を、富山県の自然の美しさとともに分かりやすく説明した郷土学習教材。(2012年)</p> <p>■ 涙に浮かぶ記憶 戦争を次世代に伝えて [28分]</p> <p>数年前、修学旅行で長崎を訪れた中学生が語り部の被爆者に「死に損ない」とののしる出来事があった。それを知った当時中学3年生の女の子が、「戦争を次世代へ伝えて」という題名で作文を書き、全国中学生人権作文コンテストで法務大臣賞を受賞した。その作文を脚色し、映像化した作品。(2017年)</p>
<p>2月 16日 (日)</p>	<p>■ 世界名作映画館 ローマの休日(吹替版) [118分]</p> <p>1953 年度アカデミー賞最優秀主演女優賞など受賞。</p> <p>ヨーロッパ最古の王室の王位継承者であるアン王女は、欧州各国を親善旅行で訪れていた。イタリアのローマでも公務を無難にこなしていくアン。だが実は、彼女はこれまでのハードスケジュールで疲れ、ストレスが溜まっていた。主治医に鎮静剤を投与されるものの、気の高ぶりからか逆に目が冴えてしまった彼女は、こっそり夜のローマの街へ…。(1953年)</p> <p>監督：ウィリアム・ワイラー</p> <p>出演：グレゴリー・ペック、オードリー・ヘプバーン ほか</p>